

人文学部卒業研究

題 目 アイドルオタクの生態から見るコミュニティ形成
—アイドルのファンコミュニティを例に—

指導教授 柳谷啓子 印

提出年月日 2019年 2月 8日

学籍番号 HI15051

氏 名 星野卓

アイドルオタクの生態から見るコミュニティ形成
—アイドルのファンコミュニティを例に—
HI15051 星野卓

要旨

本研究の目的は、サブカルチャーの一種として近年認知度の広まった「アイドル」という文化に没頭するファン、いわゆる「アイドルオタク」がライブ現場やSNSなどを通じて、アイドルや他のオタク同士とどのようなコミュニティを形成しているかを明らかにすることである。

本来、「オタク」という用語は明確な定義こそ無いものの、何かに特出したファンの包括的な総称として用いている。つまり、「アイドルオタク」は「アイドル」というコンテンツ嗜好性の強い者同士が集まっているものである。人間社会の中では、同一の目的や一体感が人同士の集まりによって生まれた際、集団としてコミュニティが生まれている。また、コミュニティを形成する一つとして「言語・文字その他の視覚・聴覚・知覚に訴えかけるような媒介を通して感情・思考を伝え、強制なき合意形成を創出することを目的として様々な芸能活動を展開する偶像的なタレント、人気者」(田中 2016)の意味を持つ「コミュニケーション・アイドル」がきっかけで、コミュニティが形成されることもある。

そこで本研究では、オタク同士が直接接触を図ることで作り得るコミュニティとコミュニティ形成に関してSNS、中でもTwitterに焦点を当ててどのように機能しているかを明らかにした上で、どのような生態であるかをオタクのファン心理や行動を基に、コミュニティ形成が成されているかを考察していく。

本論文では、Twitterの機能とコミュニティ形成について述べ、先行研究にてアイドルオタクとは何かを示し、「サブカルチャーと言われるジャンルの、特にアイドルというコンテンツに熱狂的に没頭し、社会的スキルを兼ね備えた呼び名」という定義を立てた。

研究にあたり、現場の声をデータとして扱うことでコミュニティ形成や生態が明らかになると考えた。そこで、現在通っている名古屋のアイドルグループ「ココロモヨヲ」でオタクをしている人の内、①2012年の結成当初から「ココロモヨヲ」のライブに通っているオタク、②同時期(2016年頃)から「ココロモヨヲ」のライブに通っているオタク、③2018年の事務所移籍に伴い「ココロモヨヲ」に通い始めたオタクの3つに分類し、それぞれ1人ずつを対象にインタビュー調査を行い、分析を行った。

分析の結果、コミュニティ形成は、現実のコミュニティとSNSのコミュニティを同じに捉えようとするが、SNSは虚構で出来た世界なため、本当のことに虚偽の情報が複雑に入り混じったコミュニティがSNS上で作り上げられるということが明らかになった。また、熱狂的になれる利害が一致すればコミュニティが容易に発生するが、一致しなければ「アイドルオタク」のコミュニティは受け入れることが難しくなる。さらに、一部のコミュニティに受け入れてもらうことも出来るが、民意というコミュニティが持つステレオタイプが消えない限り、打ち解けることは難しい、という結論を得た。

また、「アイドルオタク」の生態は、趣味の中で楽しいを常に前提に置いているため、認知を貰うためのSNS利用や利害が一致するオタクを探して集う。また、オタク同士でのコミュニティではオタクであることに抵抗は無いが、現実のコミュニティの中では、自分がオタクであることを押し殺して隠したり、現実のコミュニティに溶け込もうとしたりする。特殊な生態として、「ガチ恋オタク」は一途で素晴らしいが、虚構の世界に浸ったままだと過激なジャニーZファンのようにストーカーになってしまう恐れもある。という結論を得た。

このような結論から、コミュニティ形成や生態で軽蔑される文化が残っているが、世間一般の理解を深めることでオタクに対して蔑視されない未来が作れるのではないかと期待している。

キーワード

アイドルオタク ファンコミュニティ Twitter ステレオタイプ

目次

序章 はじめに	1
第1節 本研究の背景と目的	1
第1章 Twitter とコミュニティ	2
第1節 Twitter とは	2
第2節 情報化されたコミュニティ	3
第2章 先行研究の検討	3
第1節 「アイドルオタク」のコミュニケーションとは	4
第2節 オタクとアイドル	7
第3節 オタクとは	8
第3章 研究方法	10
第1節 研究対象	10
第2節 研究方法	11
第4章 研究結果及び考察	12
第1節 インタビュー調査：①結成当初から通っているオタク、I氏（仮名）	12
第2節 インタビュー調査：②同時期から通い始めたオタク、R氏（仮名）	13
第3節 インタビュー調査：③事務所移籍後に通い始めたオタク、Y氏（仮名）	15
第4節 インタビュー調査の分析と考察	16
第5章 結論と今後の考察	20
◆先行研究：参考文献	22
◆先行研究：参考サイト	23